

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合  
静岡市葵区駿府町1-12  
高教組新聞編集委員会  
http://www.s-koukyousho.jp/  
e-Mail info@s-koukyousho.jp  
TEL (054) 254-6900  
FAX (054) 254-0814  
Facebook:「静岡高教組」で検索

第472号  
2021年  
12月11日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、  
全教職員に配布しています

# あなたも高教組へ

2面 ・静岡県教育のつどい  
分科会報告



## ゆきとどいた教育を求める 請願書提出 副知事・教育長にも申し入れ



12月3日、「子どもと教育を考える静岡県民会議」(大橋昭夫法律事務所弁護士を代表に、高教組全教静岡県評・新婦人など構成)と「静岡私学助成をすすめる会」は、教育全県署名と共に、「子どもたちゆきとどいた教育を求める請願書」を県議会議員に提出しました。

「子どもたちゆきとどいた教育を求める請願」を9,354筆の署名とともに、宮沢県議会議長に提出し、各団体の代表から意見を伝えました。高教組は、高校において

が多い教員の働き方の見直しや教育予算の増額を訴えました。宮沢議長は、「県民の声である9千余筆は重い。議員のしつかりした判断を仰ぎたい。12月定例会に提出、委員会で審議し、本会議で採決する」と応じました。

副知事・教育長にも申し入れ・懇談 11月30日には、請願する項目を副知事と教育長にも申し入れました。代表の大橋弁護士は、「最近25、6歳の個人破産を扱うことが多い。奨学金の返済が滞り、利子がついて500万円超。将来を担ってほしいので自己破産による免責手続きをとるが、学費が負担で、借金して学費は教育制度としておかしい。貧困を根絶しようと弁護士になったが、子どもの貧困が深刻。親の資力による格差は不

平等。教育は自己責任ではなく社会の責任、教育こそ予算をかけねば。早く実現を」と訴えました。他の参加者からも、「私学無償はありがたいが、公立高校が学級減、それと共に教員減。しかし業務は減らず多忙化。一刻も早く高校での35人学級実現を望む」「発達障害を持つ子が増加しているが特支には入れない。その世代のセーフティネットとして定時制の必要性が大きくなっていく」と訴えました。

出野副知事は、「教育が一番大切なこと。高校でも少人数学級が必要なのは検討している。人が育つには対話が必要。『人材』ではなく人を大切に扱う『人材』が大事だと産業界とも語り合った。生徒たちが自慢できる静岡県にしたい」と。芝居が一瞬止まり、もう泣き止まらなくなった。マチヨリをナイフで切りつけられる、選挙権もない、そんな私たちのこと本当にわかつて芝居やっているの?と問いかげられた。

副知事・教育長にも申し入れ・懇談 11月30日には、請願する項目を副知事と教育長にも申し入れました。代表の大橋弁護士は、「最近25、6歳の個人破産を扱うことが多い。奨学金の返済が滞り、利子がついて500万円超。将来を担ってほしいので自己破産による免責手続きをとるが、学費が負担で、借金して学費は教育制度としておかしい。貧困を根絶しようと弁護士になったが、子どもの貧困が深刻。親の資力による格差は不

### 主張

女性教職員学習交流集会で、俳優座の舞台女優馬理恵さんのお話を聞く機会がありました。高校2年生の時、父親に「テストより大事なものがあろう」と連れてられて観たのが、水上勉の『釈迦内極唄(しゃかなく唄)』(ひつぎうた)。舞台は秋田県の花岡鉱山近く。火葬場の仕事を引き継ぐことになった末娘ふじ子の物語。秋田弁なので何を言っているかわからないのになぜかわかる。ふじ子が恋をする、火葬場の娘だからと拒否されて泣き叫ぶ場面が気絶。その後の展開も覚えていたので、目を開けたまま気絶したので、翌日は腰を抜かした

「子どもたちゆきとどいた教育を求める請願」を9,354筆の署名とともに、宮沢県議会議長に提出し、各団体の代表から意見を伝えました。高教組は、高校において

副知事・教育長にも申し入れ・懇談 11月30日には、請願する項目を副知事と教育長にも申し入れました。代表の大橋弁護士は、「最近25、6歳の個人破産を扱うことが多い。奨学金の返済が滞り、利子がついて500万円超。将来を担ってほしいので自己破産による免責手続きをとるが、学費が負担で、借金して学費は教育制度としておかしい。貧困を根絶しようと弁護士になったが、子どもの貧困が深刻。親の資力による格差は不

出野副知事は、「教育が一番大切なこと。高校でも少人数学級が必要なのは検討している。人が育つには対話が必要。『人材』ではなく人を大切に扱う『人材』が大事だと産業界とも語り合った。生徒たちが自慢できる静岡県にしたい」と。芝居が一瞬止まり、もう泣き止まらなくなった。マチヨリをナイフで切りつけられる、選挙権もない、そんな私たちのこと本当にわかつて芝居やっているの?と問いかげられた。

副知事・教育長にも申し入れ・懇談 11月30日には、請願する項目を副知事と教育長にも申し入れました。代表の大橋弁護士は、「最近25、6歳の個人破産を扱うことが多い。奨学金の返済が滞り、利子がついて500万円超。将来を担ってほしいので自己破産による免責手続きをとるが、学費が負担で、借金して学費は教育制度としておかしい。貧困を根絶しようと弁護士になったが、子どもの貧困が深刻。親の資力による格差は不

出野副知事は、「教育が一番大切なこと。高校でも少人数学級が必要なのは検討している。人が育つには対話が必要。『人材』ではなく人を大切に扱う『人材』が大事だと産業界とも語り合った。生徒たちが自慢できる静岡県にしたい」と。芝居が一瞬止まり、もう泣き止まらなくなった。マチヨリをナイフで切りつけられる、選挙権もない、そんな私たちのこと本当にわかつて芝居やっているの?と問いかげられた。

副知事・教育長にも申し入れ・懇談 11月30日には、請願する項目を副知事と教育長にも申し入れました。代表の大橋弁護士は、「最近25、6歳の個人破産を扱うことが多い。奨学金の返済が滞り、利子がついて500万円超。将来を担ってほしいので自己破産による免責手続きをとるが、学費が負担で、借金して学費は教育制度としておかしい。貧困を根絶しようと弁護士になったが、子どもの貧困が深刻。親の資力による格差は不

## 「教師は私の同志」に込められるか

もの思いをくみ取ると共に、臭い理由を説明し、差別についてじっくり考えさせる教育が必要だと思つた。高校生になって、私たちが家族だけ拒否される事件があり、「生会ってやるものか」と差別との戦いを決意したが、本当は「罪を開けて！会いたかったんだよ」と言いたかった。そんな時に「釈迦内極唄」に出会う。火葬場の

劇中に、「世の中のせいにしてはいけない。この世をつくらせているのはあなたでしょ」と言う場面があるが、いつもこの人のことを考える。誰に責任があるのか。

この劇を通じて様々な人に出会った。コスモスを人の顔に例える場面が爆笑する沖繩のおばあち泣きたい時にも笑い飛ばすしかない生き方を強いられた沖繩の歴史がし

人間にとって一番大切なことは何か。私は芝居という文化との出会いによって救われた。文化を育てる教師は私にとって同志だと思つています。

「私も奨学金で博士課程まで通った。県立大学長の時も、食べ物に困る学生もいたので学長室にカップ麺を常備し、一緒に食べた。学校

### 視座

教室でペンの回しの上手な生徒を見つけてきました。よく見ると、一回転させて、さらに逆にもう一回転させていました。英語のテスト返却後のざわついた教室のこと。注意しようとしたが、質問してみました。そんなに上手いのは相当練習したからかと。中学校の時、友達に教えてもらい、隙間時間を利用して猛練習したそうです。連続して回すと、たまに落ちてしまふので、まだまだ練習が必要、と謙虚な姿勢。今回もテストを採点すると、満足のいく点数ではありませんでした。生徒の興味が足りないんだと思いましたが、興味があれば、もっと勉強したでしょう。達成感もなさそうです。達成感という快楽を知らず、さらに勉強するいいサイクルになるのに、その生徒は、ベン回しに興味を持ち、同じ目標を共有する仲間にも恵まれ、ともに努力して習得した技に達成感も持ったことでしょうか。英語に興味はある。ないです。英語をともに学ぶ仲間いる。いません。英語で達成感はある。一度もないです。力が抜けました。ベン回し教えてくれる。いいですよ。でも興味はないし、役に立たないとも思っているけど、どう？勉強と同じです。二人で笑いました。たぶんなぜだろうと、疑問を持つことから、興味は生まれるのでしょうか。象は泳げるか？これはい質問なんだそうです。象は誰でも知っているけれど、泳げるかどうかは知られてない。既知と未知の融合された発問。よし、3学期こそ。



第14回 静岡県教育のつどい 共育分科会報告

「豊かな育ちと学びのために、私たちに何ができるのだろう」

11月号で紹介できなかったA, B, C分科会の様子を紹介しします。

A分科会 授業づくり

「初めての担任その悩みと楽しさ」

初担任となったHRの実践記録を参加者で学び合いました。

B分科会 地域における学校の役割

前半は「学校統廃合」について話し合いました。

「大きいと切磋琢磨できる」論が幅を利かした。

C分科会 コロナ禍での心身の健康保障

京都での小学校教師を退職後、静岡市に転居した新日本婦人の会の吉澤はつ江さん、まず静岡市の不登校の多さに驚きました。

支援学級がすべての学校にないために発達障害などの子の行き場がありません。

川口正義さんから、スクールソーシャルワーカーとして、子どもたちや保護者、教員と日々かかわる中で見えてくる、コロナ禍でより厳しい状況に置かれている子どもたちの状況が語られました。

「子どもの心を理解するために」

⑦ 他者への信頼と自分への信頼

別府哲先生(岐阜大学)が今年の1月にされた講演内容の、主に子どもと先生の実践の部分をかいつまんで紹介していただきました。

「障害に向き合うのではない、人格に向き合うのだ」との意味を深く考え

たい、と投げかけられたい。子どもに対して人として向き合うためにこの子はこんなことが楽しい、こんなことが苦しいんだねと、感情とともに共感的に理解するということが、彼らの支援、指導を行う時にとても必要ではないか。

自分ではなぜ悲しいのか、何が嫌なのか、子どもたちは言葉でストレートには言いません。大声で泣いたり暴れたり、時には友達にかみついたり、

し、担任のところに寄って話をしているという。Sにとっては短い高校生活でしたが、親が行けなかった高校に自分を通えたことや、どんなことがあっても親身になって相談のつてくれた担任との出会いがかけがえない宝物となったでしょう。S以外にも日常の多くの場面生徒と対話し、生徒の思いを汲み取る初担任の思いのあふれたレポートに刺激を受けました。

子どもたちの心と関係だ、子どもの心が見えない時は子どもの側に問題があると思いがち。大人自身に子どもに共感する余裕がなくなっていることが真の問題なのだ、と。だからこそ、今大事なことは大人の同僚性。とりあえず聞いてくれる、ちょっと弱い自分を受け止めてもらえ、大人の仲間づくりが今の時代求められているのではないかと。組合はそういう場ですね。と、先生たちへのエールをいただきました。



ソフトゲラジ JSDSS(ジダス) 3,800円

続・映画の中の教師たち 15 「やがて来たる者へ」

1943年12月のポーランド近郊の小さな村が舞台。小学校低学年の少女マルティーナを中心に映画は描かれる。マルティーナは貧しい小作人の娘、母親のお腹には新しい弟妹が宿っている。彼女はその誕生を待ち焦がれる。時代は第2次世界大戦末期、反乱軍(パルチザン)とドイツ軍との戦いが村の周囲に及んでいる。村の男たちの中には反乱軍に加わる者がいる。女性、子ども、高齢者にとっても、恐怖そのものである。この映画の中で、名前を出さないが、マルティーナの担任の女性教員が存在感を放っている。例えば、マルティーナが作文で、地主が作物を取り過ぎた、ドイツ人はなぜここに来たのか、お父さんも反乱軍を助けよう思っている、と書いた時、誰にも言わず母親を呼び、母親に作文を燃やすように告げる。誰かの目に触れないようにするためだ。

また、マルティーナはノミを退治するため母親が髪に灯油をかけていた。周囲の男子が「くさい」「吐きそう」などと冷やかす時、指示棒で教卓を打って「よ

科目減少で、可能性発見の機会も少ない。特に、コロナ禍で制限されていた「友人と会う・話す・遊ぶ」機会をいかに切望していたかがよくわかった。不登校や「わからないところがある」子どももわかってほしい。子どもたちのリアルな状況、子どもや親とどう関わっていくべきか、などの迷いが報告されました。